

FUKUOKA TOKUSHUKAI HOSPITAL

TEAM

特集

ダヴィンチ手術の
今を読む

外科





特集
ダヴィンチ手術の
今を読む
外科

手術支援ロボットで 内視鏡手術が変わる。

ダヴィンチシステムによるロボット支援手術は、患者さんの負担が少ない腹腔鏡や胸腔鏡手術と同じように数か所の小さい切開で、外科医がコンピューター制御された鉗子や剪刀、電気メスなどのデバイス进行操作して行う内視鏡手術です。高解像度三次元カメラにより立体的な奥行の視認が容易となり、自由度の高い関節をもつ鉗子が体内での精密な操作を可能にします。ロボット支援下手術では術者の触覚が欠如しているため術者は視覚と経験で補正する必要があり、それには十分なトレーニングを要しますが、最大のメリットである繊細で緻密な手術が可能となることで医療の質の向上が期待できます。

福岡徳洲会病院が導入している **da Vinci Xi** SURGICAL SYSTEM

01 執刀医が操作する サージョンコンソール(コックピット)

3Dによる高倍率視野を実現

ステレオビューワーによる立体視と最大15倍の拡大視が良好な術野を確保します。マスターコントローラーによる操作は手ぶれ補正機能と、大きな動きを小さな動きに縮小するモーションスケール機能で安定した手技が可能になります。

02 精密な動きが可能な手術機器を 装着するペイシエントカート (患者様に直接触れて手術する部分)

内視鏡カメラと3本の鉗子を取り付ける4つのアームを持っています。アームに取り付ける鉗子は、人の手よりも大きく曲がり回転し、用途に合わせて複数の鉗子を交換して使用することができます。鉗子の交換は助手により行われます。

03 コンピューターの 中央集積回路(CPU)に相当する ビジョンカート

内視鏡の左右2つのカメラからの情報をもとに最適な3D画像を構築しサージョンコンソールに送ります。ビジョンカートの上部のモニターには術者と同じ画像が2Dとして表示されます。またマイクを通じて術者と円滑なコミュニケーションを可能にします。



01 サージョンコンソール

02 ペイシエントカート

03 ビジョンカート

特集
ダヴィンチ手術の
今を読む
外科

安全で確実な手術に、 チームで挑む。

ダヴィンチ手術など新しい医療技術の開発により、その手法は高難度で複雑化しています。しかし、それぞれの高い専門性を前提に目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合う“チーム医療”であることに変わりありません。ダヴィンチ手術においても、サージョンコンソールを操作する執刀医だけでなく、患者さんの容態の変化や機器の調整などに速やかに対応できるよう術野にはトレーニングを受けた外科医が参加します。外科医に加えて、麻酔科医、看護師、臨床工学技士がコミュニケーションをとりながら協力して手術は進められます。

視界と可動域に自由が生まれる。

大腸がん(結腸がん、直腸がん)に対するダヴィンチ手術は、根治性と機能温存というトレードオフの関係にある命題を両立できる可能性を秘めています。繊細な手術操作を行い、落ち着いて考えながら手術を行うことで、優しく精度が高い手術が可能となります。

外科 医長 森本 光昭

執刀医の想いを、繊細な動きでサポート。

肺というやわらかい組織を扱う際に、触覚のないダヴィンチ手術ではより愛護的な操作を要求されますが、組織の位置関係や状態を解像度の高い立体視による視覚情報で補完しながら行っています。広い可動域を有する鉗子は、より複雑で繊細な操作が可能で、手術の安全性や確実性の向上に役立ちます。

副院長 呼吸器外科 部長 柳澤 純

患者さんの侵襲が同等でありながら、 より精度が高い手術が可能に。

従来人間の手で直線的な鉗子を使って施行していた内視鏡手術を、コンピューター制御のアームにより精密に行えるようにするために開発されたのが、ダヴィンチ手術です。通常の内視鏡手術に対して、ダヴィンチ手術による患者さんの侵襲は同等でありながら、より精度の高い内視鏡手術を可能にします。

骨盤内の深部の手術が容易になる ダヴィンチ手術。

ダヴィンチ手術では、通常の内視鏡手術と比べ、「より安定した術野の維持、視野の確保」「より直感的でより繊細な操作」が可能です。直腸がんや前立腺がんの手術は、狭くて奥が深い骨盤内での操作が必要になりますが、ダヴィンチの安定した精細な映像と精密な操作性はこのような狭い空間での作業で、特にその威力を発揮します。

臨床工学技士などと連携し、 より安全で確実性の高い手術を。

コンピューター制御された内視鏡手術支援ロボットを使用するため、ダヴィンチ手術では機器の準備から設定、ドッキングの補助、術中の装置の監視、トラブル時の対応を担う臨床工学技士が手術チームの一員として欠かせません。外科医、麻酔科医、看護師、臨床工学技士の全員が連携し安全なダヴィンチ手術を行っています。

福岡徳洲会病院 [ダヴィンチ手術] チーム

ダヴィンチ手術により、術中の患者さんの全身状態を維持することが、従来に比べ容易になったと感じます。圧倒的に出血量が少なく、手術を安全に行うためにもメリットがあります。

手術部 部長 鳴尾 匡史

今後保険適用も幅広くなっていくと予想されるダヴィンチ手術。時代の流れに即した知識と技術を学び、手術の準備から術後まで確実な対応を目指しています。

手術室看護師 早田 尚亮

安全に手術ができるように部屋づくり、および機器の点検・立ち上げ・管理を担います。術中は機器メーカーとほぼリアルタイムでつながり、最先端機器に対応しています。

臨床工学技士 妹尾 淳司

現在当病院で行える健康保険適応手術

直腸がん／肺悪性腫瘍／前立腺がん／腎悪性腫瘍

今後、さらに適用範囲を拡げていく予定です。

1,072

外科手術件数/2021年

時代が変わっても、 最適な医療をお届けすること。

福岡徳洲会病院外科では、消化管、肝胆膵領域、呼吸器、乳腺内分泌の手術を行っています。開院以来、急性腹症などの救急疾患に対しては24時間対応で手術を行っていますが、近年ではがん手術も多くなっています。高齢で併存疾患を有する患者さんに対しても、それぞれの分野の専門医による低侵襲かつ最適な医療を提供します。



24時間体制で臨み、 救急にも迅速に対応。

急性腹症や外傷などの緊急手術を24時間体制で行っています。2021年は346例が緊急手術で、これは外科全手術1072例の約3割に相当します。進行大腸癌における腸閉塞や穿孔といったoncology emergencyにも迅速に対応しています。外傷や腫瘍による腹腔内出血に対する動脈塞栓術や消化管出血に対する緊急内視鏡、外科による開腹手術がシームレスに行われ救命にあたります。



患者さんの状態に応じた 最善の治療を提供。

毎朝のカンファレンスでは新規入院患者さんを対象に手術以外の代替治療も含め多角的な視点で治療法を検討しています。壊死性虫垂炎や急性胆嚢炎など早期の手術が必要な場合は緊急手術となることもあります。その場合でも複数の目で判断するよう努めています。また、手術侵襲を軽減するため、がん手術を含め6割以上の手術で内視鏡手術を行っています。



診断から治療、 緩和ケアまで一貫したがん治療。

糖尿病や心疾患、脳血管障害などの併存疾患を複数抱えながら治療を行うがん患者さんが増えています。福岡徳洲会病院は総合病院ですので、これらの併存疾患についても並行して治療を行いながらがん診療を行っています。また、急性期病院ではありますが緩和ケア専門チームによる症状緩和治療も積極的に行っており、その後の在宅移行やホスピス転院まで一貫して行っています。

福岡徳洲会病院 2021年外科手術症例

部位	頸部	肺・胸腔	乳腺	食道	胃	十二指腸	小腸	虫垂	結腸・直腸	肛門	肝臓	胆道	膵臓	脾臓	ヘルニア	その他	合計
件数	7	126	21	1	26	9	64	172	178	11	19	241	12	1	96	107	1,072
胸腔鏡 腹腔鏡	0	121 (胸腔鏡手術 13)	0	1	11	6	7	170	94 (胸腔鏡手術 9)	0	4	206	0	0	47	8	659

(重複症例あり)

Surgeon doctor 外科医師の紹介

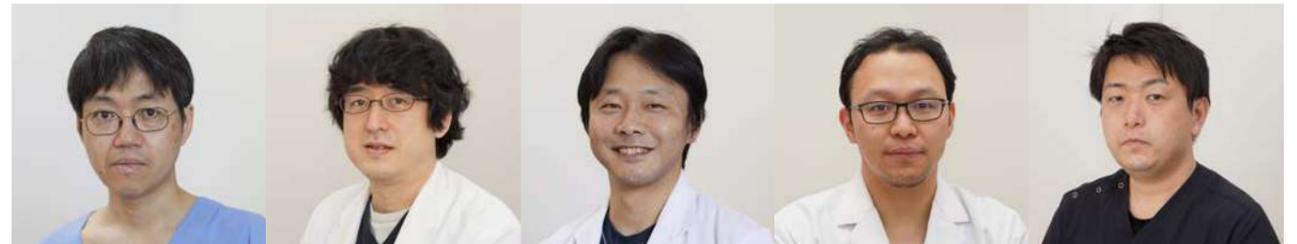
上部下部消化管、肝胆膵、胸部外科、
乳腺内分泌外科など広い専門領域に対応しています。



院長 乗富 智明 ノリミ トモアキ
肝胆膵外科、Acute Care Surgery

副院長 呼吸器外科 部長
柳澤 純 ヤナギサワ ジュン
呼吸器外科、ロボット手術

部長 吉田 泰 ヨシダ ヤスシ
消化器外科



医長 森本 光昭 モリモト ミツアキ
消化器外科、ロボット手術

医長 石井 文規 イシイ フミノリ
消化器外科、肝胆膵外科

医長 嬉野 浩樹 ウラシノ ヒロキ
消化器外科、肝胆膵外科

小宮 和音 コミヤ カズネ
消化器外科

中村 康 ナカムラ レン
消化器外科



細田 康仁 ホシダ ヤスヒト
呼吸器外科

濱畑 圭佑 ハマハタ ケイスケ
消化器外科

西野 菜々子 ニシノ ナナコ
呼吸器外科

坂本 恭平 サカモト キョウヘイ
消化器外科

町田 崇 マチダ タカシ
消化器外科

地域連携支援センターは、他病院・診療所からの窓口として、ご紹介の連絡取次ぎ、患者さんをサポートする入院支援など、充実した体制を整えています。

信頼で、地域医療は進む。だからどんな症例も断らない。

『生命を安心して預けられる病院』という理念を基に、地域の医療機関とともに、地域の皆様により良い医療を提供したい。

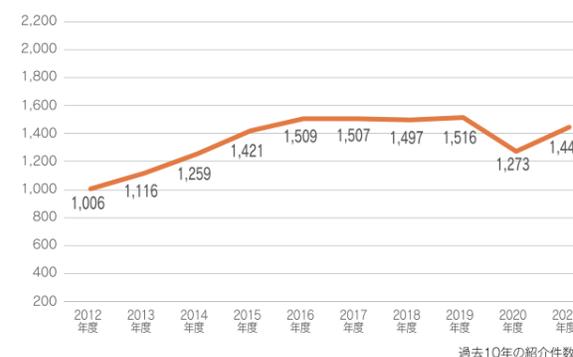


地域連携支援センター長
柳澤 純

地域連携支援センターからのご挨拶

地域の医療機関関係者の皆様におかれましては、平素より当院の地域医療連携業務にご協力いただき、誠に感謝申し上げます。
令和4年4月より地域連携支援センター長を拝命いたしました。
当院は徳洲会の理念である『生命を安心して預けられる病院』として地域の皆様に、より良い医療を提供することを使命と考えています。
急性期病院である当院の地域における役割は、手術や専門的な医療を要する患者さんを積極的に受け入れ、速やかに適切な医療を提供する

ことであり、そのためには地域の医療機関との連携は非常に重要です。
これまでも、当院の医療連携室を通じて地域の医療機関の皆様とは緊密な連携を深めてきましたが、今後は診療や検査の予約システムの効率的な運用や、包括的な退院および転院調整をより充実させることで地域医療に貢献していきたいと考えます。
診療に関するご意見やご要望などございましたら、遠慮なく地域連携支援センターへご連絡いただければと存じます。
何卒ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



医療連携室

顔の見える医療連携を目指して。

医療連携室は地域の医療機関の窓口として、地域との関わりを大切にしている取り組みを進めています。2022年春、地域連携支援センターを強化し、地域と共にある病院として、顔の見える連携を目指し、よりスムーズで最適な連携を提供できるよう取り組んでまいります。今後ともご支援・ご指導をよろしくお願い申し上げます。

業務内容

- ① 地域の医療機関との連携に関する業務
- ② 紹介窓口（紹介状・返書管理・逆紹介）
- ③ 施設訪問、広報活動
- ④ 研修会、地域連携協議会の開催

地域医療機関専用ダイヤル **0120-172-489**

地域医療機関専用FAX **0120-218-489**

- FAXは24時間受け付けますが、土日祝日の場合はお返事が後日になります。
- 平日/8:30~17:00 土曜日/8:30~12:20

入院支援室

安心して入院生活が送れるように支援

当部署では、在宅からの予定入院患者さん、患者さん家族が入院生活や入院中の治療過程をイメージでき安心して入院生活を過ごせ、退院後の生活を見据えた支援が出来るように、入院前に面談を行っています。また、遠隔地から入院が決定した場合などに、電話での面談を実施しています。得られた情報を元に、院内の医療連携室や患者サポート室、外来・病棟等、また院外のケアマネージャー・ソーシャルワーカーと連携を行い、退院支援の課題について早期に着手できるように入院支援を行っています。
退院後も住み慣れた生活の場で療養できるように、地域の医療機関との連携を強化し、入院前から院内・院外の関連部署と多職種協働で支援していきます。

入院支援室（代表電話） **092-573-6622**

- 平日/9:00~17:00 土曜日/9:00~12:00

患者サポート室

退院後の生活までサポート。

患者さんやご家族の方々に社会福祉の立場からサポートする専門部署で、医療と連携しながら退院に向けた調整などを図ります。介護保険や障がい福祉、各自治体のサービスの申請手続きの相談や、入院中や退院後の療養費および生活費の相談など、サポートいたします。

患者サポート室（代表電話） **092-573-6622**

- 平日/9:00~17:00 土曜日/9:00~12:00



NEWS CLIP



第三者評価

JCI認証病院

平成30年12月初回認証、令和3年12月再認証

病院機能評価認定病院 (GB56-5号)

平成30年6月認定更新(一般病院2)

卒後臨床研修評価機構認定病院 (JCEP)

平成29年10月認定更新、令和4年4月受審

JMIP認証病院 (外国人患者受入れ医療機関認証制度)

平成29年12月認証、令和4年2月受審

共に学び、
地域に貢献したい。

Library 院内図書室



貸し出しは行っていませんが資料閲覧、複写にてご利用いただけます。
文献調査・検索などはご相談ください。.....

利用場所 / 4階
開室時間 / 平日 9:00~17:00 土曜日 9:00~12:00
休室日 / 日曜日、国民の祝日、年末年始
利用できる方 / 福岡徳洲会病院医療連携登録医師

2022年4月入職の研修医ご紹介

地域の皆様に、より良い医療を提供できるように努力して参ります。どうぞ宜しくお願い致します。



牛原 夏海 ウシハラ ナツミ 奥 哲郎 オク テツロウ 財前 俊宏 さいぜん トシヒロ 田中 航太郎 タナカ コウタロウ



津代 海 ツシロ カイ 西尾 建紀 ニシオ タケキ 廣瀬 陽俊 ヒロセ ヨウシュン 増田 千夏 マスダ チナツ



松井 孝介 マツイ コウスケ 宮崎 惇 ミヤザキ ジュン 安田 悠 ヤスダ ユウ 山下 達郎 ヤマシタ タツロウ

この春、薬剤師外来がスタートしました。

2022年
4月より

薬剤師外来開設のご案内

目的

高度化・複雑化するがん医療に対応するため、
がん薬物療法の専門的な知識や資格を持った
薬剤師が、医師・看護師・薬局薬剤師等と連携し、
がん医療の質向上や安全確保、患者支援
に努めることを目的とします。

対象患者

- ①福岡徳洲会病院に外来通院中の
がん患者さんとご家族
- ②下記薬剤を内服する患者さん
(注射薬との併用は別機会でご相談)

エスワンタイホウ配合OD錠、カベシタピン錠、
ロンサーフ配合錠、スチパーガ錠など



業務内容

- ①薬剤の効能・効果、服用方法、投与計画、副作用の種類とその対策、日常生活での注意点について説明・相談を行います。
- ②副作用に対応する薬剤を使用している場合は、その服用意義や使い方について説明を行います。
- ③相互作用に注意すべき薬を服用している場合は、その薬物相互作用について説明を行います。
- ④薬剤に関する情報を周知し、必要時は、患者さんに電話連絡することもあります。
副作用相談等の指導対応に悩む場合は、主治医に報告・相談します。
- ⑤必要に応じて、看護師・栄養士等の職種と連携を図ります。
- ⑥必要に応じて、かかりつけ薬局と副作用等の情報を共有します。

担当する薬剤師

がん薬物療法認定薬剤師(日本病院薬剤師会) / がん専門薬剤師(日本医療薬学会)
外来がん治療認定薬剤師(日本臨床腫瘍薬学会)



医療法人 徳洲会

福岡徳洲会病院

〒816-0864 福岡県春日市須玖北4丁目5番地
TEL.092-573-6622(代表) FAX.092-573-1733

<https://www.f-toku.jp/>

福岡徳洲会病院 検索

